

第2回 阿南駅周辺まちづくりビジョン検討会議 会議録(要旨)

■開催概要

開催日時:令和3年10月15日(金) 10:00~12:00

場 所:阿南市役所 6階 602・603 会議室

・出席者

構成員 10名

事務局 13名 (市 7名、独立行政法人都市再生機構西日本支社 3名、昭和株式会社 3名)

1. 開 会

開会挨拶(阿南市長)

2. 検討事項

(1) 阿南駅周辺まちづくりビジョン(案)について(事務局から説明)

ビジョン策定の目的を「ビジョンに基づく取組を推進し、多様な利用者に喜ばれるサービスを構築することにより、駅周辺エリアの価値を高め、持続可能なエリアマネジメントの新たなモデルとして体现すること」と設定し、ビジョンの位置づけ、計画期間、構成、現況、課題を踏まえたコンセプトや基本方針を定め、前回の検討会議での意見を踏まえ、導入機能案を検討するため、市民会館解体跡地と阿南図書館、阿南市商工業振興センター周辺用地の3か所の公共用地における導入機能案として3案を提示した。

(2) サウンディング型市場調査の実施概要について

調査の目的、事業者へのヒアリング内容、対象とする民間事業者案、留意事項について事務局から説明した。

(3) 意見交換

[構成員]

- ・阿南市の優秀な子供たちが18歳になって、都会の大学に行って、就職して、結婚して、子供ができてもう帰ってこない、ずっと定住する。こういうところが田舎まち共通の課題であり、阿南市の課題である。
- ・人口減にどう対応していくのかを考えたとき、重要なのは教育だと思う。高校までは田舎にあるが、大学、専門学校、高専へ行こうというときに、田舎の優秀な人材が都会にとられていく。ここを防がない限りはいつまでたってもまちが衰退していく。例えば、那賀町、海陽町とかで生まれた子供たちを阿南で受け皿になって受けとめて、徳島市とか県外に行かさないことが、阿南市に求められている役割と思う。
- ・若い人は子供を産んで人口が発展していく余地があると考えれば、若い人、ファミリー層をターゲットにするべき。教育機能を充実させて、ファミリー層が住むまちにしていき、そのファミリー世代が次の世代を産んでというような持続可能なまちが続いていくと思う。

[構成員]

- ・阿南に大学がないことは現実で、都市部の大学に進む流れは止めることができないと思うが、都市部へ行って、またふるさとの阿南に帰りたいと思うような魅力のあるまちにする必要がある。
- ・20年先というと、車が全部自動運転という時代になって、AIもどんどん世の中に入ってくると思う。阿

南駅におり立つとシンボルである市庁舎が一目に見えるのが魅力あるまち。市民会館解体後、図書機能で情報発信の基地として、東西の遊歩道を作ってまち並みを散策できるまちという感じがいいと思う。

・20年先の自動運転化に備え、にぎわいを戻すためには未来のアクセスを考えたまちづくりと公共施設の配置が必要。若い人も、ファミリー層も集い、その駅周辺に医療施設等都市機能を全部集約し、コンパクトシティ化を図る。

[構成員]

・20年後のビジョンとして、私の中でキャッチコピーが「とりあえず阿南」、とりあえず阿南に行ったら何かある。老若男女問わず、市政もいろんなものが集中している、コンパクトシティ。「とりあえず阿南」というものがあればいいと思う。それに伴って生業の見えるまち、商いをするだけでなく、遊んだり、チャレンジしたり、学んだり、育んだり働いたり、集ったり、人が生きる様が見えるまちであって欲しいと思う。その機能の中心が阿南であって欲しい。

[構成員]

・20年後と言われても今の問題が山積み過ぎて先が見えない。今抱えている問題をクリアしていかなければならない。

・県外から移住を促進する事業は結構あるが、今現存する若者たちを大事にしてあげるような政策、目に見える形で若者に対して何かしてあげてやっぱり阿南はいいまちだったと思ってもらえるような政策をしたら、県外にでも帰ってくると思う。

・富岡商店街では、これから新しく事業をやりたい、週末だけでもやってみたい方を応援できるようなまちをつくって行きたいと思う。その一つがチャレンジショップ、キッチンカーという手段で始めている。

[構成員]

・20年後の阿南市で避けられないのは人口減少なので、コンパクトシティ化をどんどん進めていかなければいけないと思う。人が集って魅力のある阿南市内のシンボル、徳島県南部地域のシンボルとしてこのエリアは非常に大事になると思う。

・東側については、複合的な図書館機能を再構築して、富岡東高校等の連携によって教育関係を前面に打ち出した近代的な都市型の市街地が望ましいと思う。西側は阿南市のシンボルである市役所と阿南駅を結ぶ導線に人が集ってかつ歩いて暮らせるまち(エリア)が必要になると思う。歩行者が主役の道路が求められていると思う。

・ターゲット層は、若者世代でいいと思う。

・これからの公共交通のあり方は、持続的な公共ネットワークを築いていかなければならない。最終的には公共交通を守っていくという課題がある。阿南駅周辺の交通結節点機能の強化を一つ項目において、駅周辺、駅間近のエリアについて、何が必要なのかというのを盛り込んでほしい。

[構成員]

・若者世代を中心にすべきと考えているが、もう少し若い世代も考えている。今年生まれた子が、20年後に阿南市で幸せに暮らしていく20年後を一緒に描きたいと思う。

・20年後のためにやれることとして、1つ目は建築やまちのデザインを良くしていきたい、2つ目は南海トラフの確率が上がっていると思うので、研究機関として防災機能の強化、3つ目に仕事の間を作ることである。

・中小企業を国際化して、高専生が徳島の企業に就職する。そこで世界で活躍する場を一緒に作ってい

く機能を高専から提供できればと思う。

・20代の話がこういう場で聞ける機会があればいいと思う。

[構成員]

・20年後の世の中を社会全体で考えたとき、SDGsが終わっている時代で、おそらくカーボンニュートラルとか環境系のことを広く言われると思う。それからもっと多様な物の繋がりが大切になると思う。

・ハブ拠点として、阿南市のもう少し地方をつなぐ拠点となるのはこの阿南駅周辺になると思う。

・人をつくるのがとても大事になると思う。教育のあり方もデュアルスクール制度とか、拠点を作らない学校も出てくる可能性がある。新しい公共を考える時には、デジタル社会に対応できるインフラ整備がとても大事になると思う。

・その時必要なものを入れ替えられる可能性を持たせ、10年後ならこういうものが大事だから、これを使うと。その後世の中も私たちが想像できないような展開を見せると思うし、もちろん南海トラフ30年以内に70から80%なのでどの時点でどうなるかわからないが、どんな使い方もできることを頭に入れ、どんどん使い方は変わっていくという想定でのインフラ整備はとても大事と思う。

・キーワードとしては人づくり、それからつなぐハブになる拠点整備だと思う。

・ハードな構造物自体は変えられないので、まちのデザイン自体をどうするのかは、2042年以降も見据えなければいけないと思う。箱をどこにどのぐらいの大きさのものを作るのかは決めて、中身は使い方によっては変わる可能性も残しておく。

・阿南駅の立地条件としては高校が3つも近いというのは特徴的なまちの一つでもある。この教育のターゲットを富岡東だけじゃなく阿南全体の高等教育機関に繋がるような子供たちを大切に何か目的を持ったものを作るとかも大切と感じた。

[座長]

・時代の流れが早いので今決めたことが、来年は本当にそうかと言われたら絶対そうじゃないことも結構あって、将来のことを決めるということは難しいが、何か目的を作ってそこに向かうということも大事。

・ターゲットはちょっと若い人の方がいいというのが構成員さんの意見の中では多い。とりあえず阿南に来れば何とかなるような設備がそこに全部あることは理想。フレキシブルにできる施設があるというのも理想と思う。

・集合住宅、住宅を作ると他に転用することが困難かもしれないが、図書館とか子育て支援は、共存共栄できるし、別々にもできる、西側に移すとかもできると、非常に時代に合ったまちづくりが永遠に続けられると思う。その仕組みづくり。

・コア、オプションも含めて、いつでも誘致・活用・利用できるというのが、このエリアに来るとできるというのが理想。それがあから若い人がここに集って、仕事もあって家もある。

・拠点は必要で、降りてすぐ乗れるってような場所を作る。理想は鉄道に乗ってきて、ホームの後ろ行ったらバスが来てるのが理想。阿南駅が移動するための中心とするとそこからどうやって動くかを考えておくべきだと思う。

・SDGsについて、噂では2040年まで延長するという話も聞いている。10年間ちょっと延長する話も出ているので、阿南市がSDGsを掲げて、そこをターゲットにしたまちづくりっていうのもありだと思う。世界中にインパクトのある宣伝はできると思うので、そういうまちづくりもいいと思う。

[構成員]

・すでにある阿南高専の機能強化、維持、発展が一番現実的な話かもしれないが、県外から大学を連れ

てくることは全然不可能ではないと思う。連れてくるんだったら工業系の大学がいい。高専、大学で勉強した人たちが地元の工業系に就職するというサイクルができると、逆にその企業側が人材を求めて、教育機関のあるところに集約してくるという要素も出てくる。

- ・人材の力で、企業の方が来たくなくなるようなまちづくりをしていくことが非常に大事。企業が来ることによって、市の税収が上がり、税収が入ると、また次打てる施策も出てくる、まちの好循環ができてくると思う。
- ・大学とか、高等教育機関を連れてくる、或いは県立大学を新設する。それによって、人材を集め、ファミリー層を集め、企業も集積し、今より人口が20年後増えることも不可能ではないと思う。

[構成員]

- ・高専の方も前回の話を受けて、大学との連携を考えている。もし駅前に建物が建つなら、そこに高専と大学で研究所を作ることを内部で検討している。

[構成員]

- ・今回計画のターゲットとなる市民会館跡地或いは図書館跡地、主に駅の東側の公共用地の使い方をどうするかを決めていくのは、非常に重要。
- ・公有地の使い方は、ある程度柔軟にいろいろと使えるようにしたり、少し余白的なものを残しておくという考えも一つあると思う。
- ・子育てファミリー層を呼び込む住宅に全部分譲住宅を建てると、最初はファミリー層とかが住んだとしてもそのまま住み続けられ、常に新しい人がくる状況ではなくなるので、住宅として提供するときはどういうような形にするか、さらには、商店街側も若い人が新しく進んで住みかえられるような仕組みを色々考えていかないといけないと思う。

[構成員]

- ・阿南市も平成30年度に立地適正化計画を策定してまちづくりに取り組まれている。立地適正化計画に基づいた形で進めていけばいいと思う。
- ・若い人をターゲットにした方がいい。
- ・東側は、公共が中心でまちづくりを行っていく。プラス都市居住エリアなので居住機能を入れて、人口を増やしていく。西側エリアは、やはり民の力が重要。阿南市がちょっと手伝いをしながら、民間の活力が出るようなまちづくりをしていくと20年後、駅を中心としてにぎわいが出る。

[構成員]

- ・自分のまちを自分たちで作っていく大型プロジェクトになっていくといい。20年後を見据えたときに、自分のまちがつかれるような技術者をつくれる機会を公共として与えていただければと思う。

(4) その他

3. 閉会

閉会挨拶(阿南市長)